

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 児童・家庭福祉		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 保田 浩美		科目コード 3015	
回数 15回		時間数（単位数） 30時間		配当学年・時期 1年 後期		必修 ・ 選択	
【授業の目的・ねらい】 1. 児童・家庭及び妊産婦の生活とそれを取り巻く社会環境から生じる問題について説明することができる。 2. 児童福祉の歴史と児童観の変遷や制度の発展過程について説明することができる。 3. 児童や家庭福祉に係る法制度について、歴史的変遷の影響を関連付ける事ができる。 4. 児童や家庭福祉領域における支援の仕組みと方法を理解し、求められる社会福祉士の役割を説明することができる。 5. 児童・家庭及び妊産婦の生活課題を踏まえて、適切な支援を見立てる事ができる。 【授業全体の内容の概要】 現代社会における児童・家庭福祉の理念と意義について、現代日本の子どもをとりまく社会的背景や問題状況を背景とした子どもと家庭福祉の現代的問題について考察する。 【授業修了時の達成課題（到達目標）】 1) 日本の子どもをとりまく背景・問題状況を理解する。 2) 児童・家庭福祉施策の名称と役割を説明できる。 3) 問題解決に必要な児童・家庭福祉サービスとそれに関わる専門職を関連付ける事ができる。 4) 子どもの権利を正しく理解し、制度や施策との関連に気づく。							
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 1. 児童・家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要と実際 2. 児童・家庭福祉制度の発展過程 3. 児童の定義と権利（児童憲章、児童の権利に関する条約、子ども基本法） 4. 児童福祉法 5. 児童虐待の現状と支援 6. 児童虐待に関する本県の取り組み 7. 児童相談所の役割 8. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 9. 社会的養護（児童福祉施設） 10. 里親制度 11. 次世代育成支援対策推進法・少子化社会対策基本法 12. 子育て支援制度 13. 母子及び父子並びに寡婦福祉法 14. 母子保健法 15. まとめ 後期末試験							
【使用テキスト・参考文献】 最新・社会福祉士養成講座3 児童・家庭福祉 中央法規出版 社会福祉小六法2024〔令和6年版〕ミネルヴァ書房				【単位認定の方法及び基準】 授業態度、試験、出席状況から総合的に評価し、単位認定を行う。下記の記載内容も留意すること。 ※1 試験の評価基準：6割以上の成績にて合格。 ※2 グループワークの評価基準：グループ討議やグループ発表に積極的に参加し、理解を深める姿勢を高く評価する。			